



沖縄高専だより

National Institute of Technology, Okinawa College



目次

- | | | | |
|---------------------------------|---|---------------------------------|-------|
| 1. 校長より | 2 | 8. 遠隔授業の様子または応援メッセージ(専攻科生) .. | 9 |
| 2. 遠隔授業の取り組み概要 | 3 | 9. 学生寮の取り組み | 10 |
| 3. 遠隔授業の様子または応援メッセージ(1年生) | 4 | 10. キャリア教育センター活動紹介 | 11 |
| 4. 遠隔授業の様子または応援メッセージ(2年生) | 5 | 11. 就職・進学活動の様子 | 12~13 |
| 5. 遠隔授業の様子または応援メッセージ(3年生) | 6 | 12. インターンシップ報告 | 14 |
| 6. 遠隔授業の様子または応援メッセージ(4年生) | 7 | 13. 学生活動の様子・オンラインでのコンテストへの取組 .. | 15 |
| 7. 遠隔授業の様子または応援メッセージ(5年生) | 8 | 14. LINEでも入試情報公開します! | 16 |



沖縄工業高等専門学校
校長 伊原 博隆

今年度 4 月 1 日に着任しました第 4 代校長の伊原博隆です。

今年度は、令和初の学生となる第 17 期生および編入学生を迎えることができましたと同時に新型コロナウイルス感染症とともにスタートすることとなりました。マンモス寮を抱える本校特有の状況判断により、4 月早々から入学式の中止や寮を閉鎖せざるを得ない状況となりましたが、安全な学びの場を確保・継続するため、いち早く遠隔授業やテレビ会議システムの導入を積極的に進めて参りました。その後、段階的な登校日の設定や、部分開寮・対面授業等を開始し、三密による感染拡大のリスクを可能な限り抑制して、9 月 11 日には無事、前学期を終了することができました。その間、学生・保護者の皆様を始め、後援会、沖縄高専産学連携協力会、ほか多くの関係の方々のご理解およびご協力をいただきました。教職員を代表しまして皆様に深く御礼申し上げます。

本校は、コロナ禍にあっても本校が目指す教育研究方針に変更はなく、むしろ新たな取り組みを積極的に進めて参りました。教育関係では、特色ある人材育成の方針を強化するため、学科横断型教育プログラムの拡充を進めています。具体的には、平成 27 年度にスタートし、(実績を重ねてきた航空技術者プログラムに加え、) 本年度からサイバー・セキュリティ人材育成プログラムの本格運用を開始します。また、IoT 教育については、低学年で実施してきた基礎教育から高学年を対象とする実践教育への連結運用を展開し、更に健康医療産業における情報技術活用のためのバイオ・インフォマテックス人材育成プログラムの拡充を推進しています。これらの教育プログラムを整備し、本校の特色を明確に位置づけ、将来の情報ネットワーク社会を担う人材の輩出に努めて参ります。

研究面においては、これまで以上に地域貢献・産学連携を活性化するため、今年度より産学連携コーディネータを増員しています。また、教員個々の研究力や国際力を強化し、教育研究の質向上を目指しており、その一つの指標となる文部科学省系の競争的資金(科研費)の採択増に取り組んできました。その結果、新規採択数の大幅な増加(前年度の 2 倍)へ繋がりました。

新型コロナ問題は、オリンピック 2020 を始め多くのイベントが延期や中止に追い込まれ、経済の停滞や医療崩壊の危機を招き、今なお不安な要素は拭い切れていませんが、その一方で、新たな学びの方法や社会生活のあり方、復活への道のり等について、活発な議論の場や創意工夫の機会を与えてくれました。これまでほとんど経験したことのない遠隔授業においては、きっと遠隔手法ならではの新しい学びの効果が得られるものと期待しています。

私たちは今「変化」し、「進化」し、そして「適応」する力が問われています。本校はこの機会を前向きにとらえ、新しい時代に適応し、地域や国際社会に求められる高専を目指しています。今後とも、皆様のご理解・ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

萩生田文部科学大臣が沖縄高専を視察

9 月 30 日(水)、萩生田文部科学大臣が沖縄高専を視察されました。初めに校長室にて、伊原校長から学校概要や新型コロナウイルスの対策状況等をお聞きになった後、生物化学工学実験室にてバイオインフォマテックスをテーマとする卒業研究の授業をご覧になり、その後、航空技術者プログラムの授業で活用している実物の航空機エンジン等を視察されました。特に生物資源工学科の卒業研究では、大臣が本校学生に対し、講義内容を積極的にご質問され、今後の勉学に向けてエールを送られていました。

また、大臣からは今後の高専教育の重要性についての発言がございました。沖縄高専では、コロナ禍であるからこそ、学びを止めるのではなく誰 1 人として取りこぼさない教育を進め、更なる高専教育の発展を目指しています。



生物化学工学実験室の視察

(提供 文部科学省)

生物化学実験室にて学生(左)から卒業研究※について説明を受ける大臣(右)

※がんの進展に関係する腸内細菌叢のバイオインフォマテックス解析に関する研究



遠隔授業の取り組み概要

副校長(教務担当) 眞喜志 治

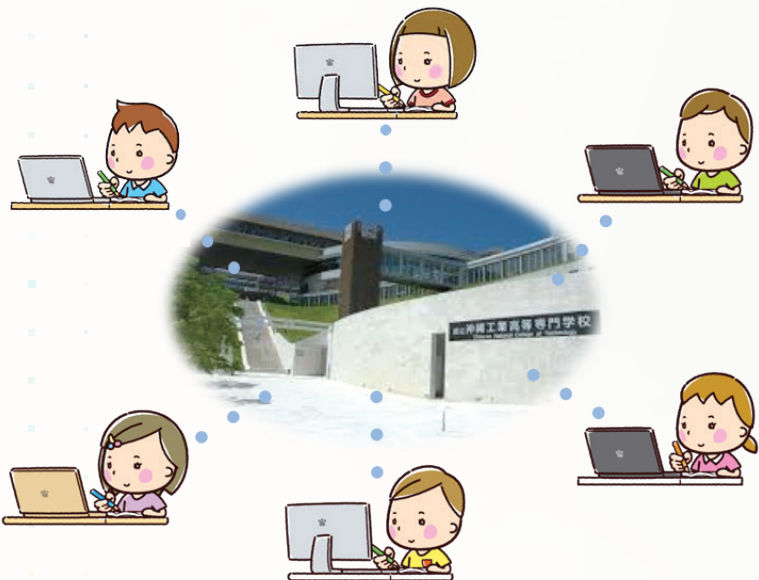
新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、本校では前学期中、ほとんどの授業を（学年によってはすべての授業を）遠隔で実施することとなりました。学生だけでなく、教職員までもが遠隔授業には不慣れな状況（はっきり言えば初心者）の中で、唯一の安心材料は学生全員がノートパソコンを所持しているということでした。このおかげで、インターネット環境が整っていれば（あるいはインターネット環境を提供することができれば）、講義資料を学生のもとへ届けられることができ、遠隔授業を推進することが可能だと考えました。逆に言えば、それ以外は不安だらけで、教務主事は眠れない日々が続いたと聞いています。

遠隔授業には、「リアルタイム型」と「オンデマンド型」がありますが、学生の学習環境を把握できていなかったことに加え、インターネット通信での負荷を軽減することを目的として、「オンデマンド型」の遠隔授業を採用することとしました。そのためのツールには、すでに活用されている教育支援システム「Blackboard」を利用し、「Microsoft Teams」を併用することで、同時双方向での講義資料の補足説明や質疑応答に対応しました。

ほとんどすべてが手探りの状態で始まった本校の遠隔授業ですが、当初は教職員にとっても、学生にとっても満足のいく授業ではなかったかもしれません。しかしながら、2年生以上を対象とした遠隔授業に関するアンケート結果からは、回答した半数以上の学生が、遠隔授業へ理解を示していることがわかり、とても勇気づけられました。

後学期に入っても遠隔授業を続けているわけですが、学生にとっては、これまで「授業は教室で受講することが当たり前」、だったにも関わらず、ある日突然、「今日から自宅で受講して」、と言われて誰もがスムーズに対応できるとは考えていませんでしたので、どこかでケアする必要があることを想定していました。結果的に、前学期中は登校の機会がほとんど得られませんでしたので、短い夏休みにも関わらず補習期間を設定したわけですが、対象となった学生（実はそれ以外の学生についても）の受講確認や課題提出には一定の改善がみられ、また、遠隔授業における学習の進め方を認識してもらうきっかけになったのではないかと考えています。

改善すべき点の多い本校の遠隔授業ですが、このような中でも多くの学生が学ぶ気持ちを忘れずに、しっかりと対応してくれたことは、今後の対面授業において効果を現すものと期待しているところです。



遠隔授業の様子または応援メッセージ

1年生



おがた ゆうた
緒方 勇太

1年1組担任

こんにちは、1年1組学級担任の緒方です。今年は新型コロナウイルス感染拡大のため、入学式や体育祭も中止で、1年生は6月から遠隔授業が開始しました。初めは「メールの書き方すらわからない」状態の学生が、今では毎朝の体調報告をメールで行い、アプリでビデオ会議を行えるまでに成長しています。この遠隔授業の開始に際しては、本校からのアナウンスなども不手際の連続で、色々とお迷惑をおかけすることもあったと思いますが、学生や保護者の方々のご協力もあり、何とか前期を乗り越えることができました。感謝申し上げます。

そして7月になり、やっと対面授業が行える状態となりました。1組は比較的明るい学生が多く、昼休みや放課後も仲良く過ごしていました。仲が良すぎて、少し密になり過ぎている状態でしたので「席替えでoshiようかなあ」と考えていた矢先に、遠隔授業へと逆戻りとなりました。

今年度は、遠隔授業でご家庭での学習時間が長く、保護者の方々には大変なご負担をおかけしますが、保護者の方々と密に連絡を取ることで、学生の学習を支えていけたらと思います。今後とも何卒ご協力よろしく願いいたします。



わたの だい
和多野 大

1年2組担任

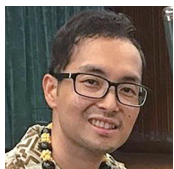
こんにちは、1年2組担任の和多野です。

遠隔講義形式での後期スタートですね。前期の3週間の登校期間は、とても貴重だったと思います。私も、遠隔講義の資料を作成する際に、みなさんの姿や反応を具体的にイメージできるようになって、楽しさとエネルギーを感じられるようになりました。

規則正しい、安定した生活、心がけていますか？自宅にいると、際限なく乱れていけますね。時間と行動の自己管理は、とても難しいものです。高専で組まれている時間割を元に、勉強時間の固定化を軸にして、生活を作っていきましょう。

スポーツ系の教員として、運動の確保をオススメします。睡眠の質が向上し、生活にメリハリが出ます。コロナの環境下では困難ですが、時々外に出て、リフレッシュできると、いいなと思います。

ゲームやスマホは、そのものが活動のメインとなり得る依存性を伴うため、生活リズムに大きく介入してきます。有限の集中力を消費するので、勉強には確実にマイナスです。でもゲームは楽しいし、スマホは便利です。一定の距離を保ちながら接する能力を、身につけていってほしい、と思います。後期も元気に、いきましょう！



さきはら まさし
崎原 正志

1年3組担任

1年3組担任の崎原正志（さきはらまさし）です。高専に来てから3年目、担任は2年目です。授業はEnglish Comprehension (ECP) Iなどを担当しています。ECP Iは「文法」を中心に学び、英語で読む力をつける授業です。中学ではよくわからなかった英語への疑問に対して文法をきちんと説明することで「スッキリ！」を増やします。授業の終わりには必ず「振り返り」をしてもらいます。canとbe able toの違いがわかった、「完了形」が時間の幅を表す時の概念であることが理解できスッキリしたなど今までのモヤモヤが解けた学生もいるようです。

しかし、英語が苦手な学生にとっては文法を理解するのは難しいかもしれません。文法がわからなくても英語はできますが、技術者の育成を目指す高専ではより専門的に英語を学び理解を深めることが大切だと思います。後期も学生のみなさんの専門的知識が増えるよう、楽しいかつ内容の濃い授業作りを目指しますので、ついてきてください！



かたやま あゆこ
片山 鮎子

1年4組担任

1年4組担任の片山です。令和2年も半ばを過ぎて沖縄高専の後期授業が始まりました。現在、1年生は遠隔授業期間のため、教室にいる学生は離島や県外生などわずかで、せっかく入学してクラスメートとも顔合わせができたのに、今はバラバラの状態になってしまいました。PCを使った授業では顔は見えませんが、毎朝のSHRでは多くの学生がきちんと朝起きて授業を受ける準備を整えていることがわかります。また、LHRでも皆呼びかけによく答えてくれます。

現在、私は1年生の国語Iを担当しています。皆、とても真面目に授業課題をこなし、わからないことや疑問点があるときの質問もとても丁寧な文面でメールをくれるので、いつも感心しています。もし、質問したいことがあるけれど、まだ私にメールを送ったことがないという人がいたら、ぜひ気軽にどうぞ！授業のことでクラスのことでもかまいません。

うまくいけばもうすぐ対面授業が始まります。また皆で机を並べて挨拶できる日を楽しみにしています。

しまじり まりこ
島尻 真理子

2年1組担任

1組担任の島尻です。2年生の皆さんのスポーツ実技Ⅱを担当しています。スポーツ実技Ⅱでは、コロナ禍となり、感染拡大防止のために stay home を頑張っている皆さんに向けて、遠隔授業を利用して、運動強度の少ないラジオ体操やストレッチングから運動強度が高いスタジオエクササイズまでを、お家時間中の運動不足の解消、対面授業が始まってケガや熱中症、すぐに息切れ…ということがないようにと願い、実施しています（継続中）。

私の作る遠隔授業動画のもう一つの目的は、突然始まった「学校に行けない」という日々を、私や私の後ろに映る学校の風景、そして「スペシャルゲスト（2年生を担当される先生方を中心に）」にご出演いただくことで、少しでも2年生の皆さんと「学校」をつなぐことができたなら…と想って、作成していました。

あともう少し、ガマンしなければいけないかと思いますが、このつながりを大切に、お互い「顔晴って」いきましょ！

よし い けいすけ
吉居 啓輔

2年2組担任

2年2組担任の吉居です。2年生とは線形代数と一緒に勉強しています。遠隔授業、対面授業と変わる度に、学生にはもちろんですが保護者の皆様にも大変ご迷惑をおかけしました。私達教員にとっても遠隔授業は初めての経験で、上手く出来ていない事がたくさんあると思います。そんな中でもなんとか遠隔授業ができたのは、多くの学生が上手くこちらに合わせてくれたお陰であり、感謝すると同時に頼もしくも感じています。

「今年度はどんなクラスになるだろう」と楽しみにしていた中、入学式、体育祭、高専祭と大事なイベントが次々中止となってしまいました。前期に2組の学生が揃うことができたのはわずか2週間でしたが、「とてもいいクラスだなあ」と感じていました。後期では勉強も遊びも頑張って、少しでもたくさんの楽しい思い出を作って3年生に進級して欲しいと思っています。

しもこおり たけし
下郡 剛

2年3組担任

「繋がっている」感

2-3担任です。「学生の様子を」との依頼でしたが、それは無理な相談なので、遠隔授業の話しをします。2-3はSHRをメールでしています。配慮したことは、なるべく1つ雑談を入れるでした。共感したり面白がってくれたりして「繋がってる」感を抱いてくれる学生が一人でもいたら大成功と考えました。だから雑談は無理して読まなくても全然OKです。実のところ、前日の夜、1時間近くかけて文章を練っています。なるべく簡潔に、なるべくおもしろく、なるべく共感を得やすい時事ネタを、と。それを朝読み直し、手直して配信します。ネタの収集が大変で、これはと思ったネタがあったら、情報を手元に残し、SHR前日を待ちます。数日経つと、新鮮味がなくなって、結局ボツネタになったものがたくさんあります。

「繋がってる」といえば、先日、不審なメールが来ました。遠隔授業についての質問だったのですが、明らかに沖縄高専ではありません。知らない人からのメールは無視するのが鉄則ですが、学生のようにだし、「無視してないよ。アドレス間違ってるよ」と言ってあげたくて調べたら函館高専かも？でした。確証がないので返信は出さず、函館の事務に電話して該当者がいたら伝言を、とお願いしました。そしたら、追って「ごめんなさい」の後、次のメールが来ました。「全国の高専の方が利用しているのでいろんな人とお話できますね」って。これって「繋がってる」感だよな、と思いました。僕は幼少の頃、お盆で親戚が集まる時、間違っ隣家に「こんばんはー」とでっかい声で入っていったことがあります。知らない人たちが皆僕を見てフリーズしました。母親が慌てて後から「たけし！隣の家やが！」と言っていました。隣の家と間違えるのはよくある話しかけど、北海道と沖縄で間違えるってのは、すごい時代だな～と思いました。



カーマン マコア クイオカラニ

2年4組担任

今年度は従来とは違った形でのスタートとなりました。オンライン授業は「学ぶ」・「教える」のどちらの立場にとって新しい方法で挑戦でしたが、これを通して学んだオンラインスキルは、将来皆さんが「雇用主」に求められる大切なスキルです。以下は私から皆さんへの助言です。

時間を有効活用する：早寝早起き（8時間睡眠が理想）する事で脳機能が最適化され生産性が向上します。

スケジュール通りに授業を受ける：予定されたレッスン時間に授業を受け、極力後回しにはしません。

先に進める：レッスンの受講が終了したら、可能であれば次のレッスンを開始します。レッスン前夜にレッスンのスライドと教科書をプレビューするのに5～10分なので、次回に備えます。

整理する：MicrosoftからPlannerと呼ばれるアプリケーションがあります。ECMⅡのグループプロジェクトでも使用しました。各コースのタスクと期限を作成できます。

ストレスを抱えず、限られた環境の中で努力し良い結果を得られるよう努めてください。計画的に物事を進め、楽しく充実した「自由な時間」も過ごしてほしいと思っていますので、これらを是非念頭に行動してみてください。

あさと けんたろう
安里 健太郎

機械システム工学科 3年

3年生の皆さん、まずはこの半年間、遠隔授業お疲れさまでした。3年生は、クラスが学級別から学科別になり、専門科目の授業も増え、将来について悩み始めて…と、学習環境や心境が大きく変化する学年です。そんな中、友人と会えない、学校イベントも一緒に楽しめない、という状況は不満も大きかったと思います。しかし、皆さんが遠隔授業に取り組み、自主的に学んでいくことができたということは、大きな成長であり、担任として大変うれしく思います。

近い将来、IoT、AI、ロボット等の技術革新により、仮想世界での活動が現実世界と同じくらい重要な社会が来るといわれています。まだ完全ではありませんが、今ではコンピュータ上で描いた仮想上のモノが、3Dプリンタで自動的に実現できるようになりました。機械の分野といえども、遠隔（仮想上）で実験やものづくりをする時代になりつつあります。今回の状況を乗り切った経験は、きっと将来活かされてくると思います。昔に戻る（戻す）のを望むのではなく、何をすれば良くなるのか、一緒に考えていきましょう！

なかひら かつや
中平 勝也

情報通信システム工学科 3年

情報3年生は、遠隔授業が始まってから、TV会議やSNSを利用して様々な取り組みを行ってきました。

朝のショートホームルームは毎日必ず実施することで、クラス全体が規則正しい生活をするのを心がけてきました。また、クラス級長が中心となって、日々、課せられる課題の内容と締め切りのリストをインターネットでファイル共有して課題の提出が遅れないように皆でお互いに注意しました。

簡単な情報共有はクラスメンバーを登録したLINEが大いに役に立ちました。放課後は、自主的にTV会議で勉強会を開催してクラスメート同士で分からないところを教えあいました。時には、各家庭や近所で起こったこと雑談をしながら、友達との親交を深めました。



勉強会の様子



LINEを使ったクラスの情報共有

にしむら あつし
西村 篤

メディア情報工学科 3年

3学年は昨年度の2年メディアから15期入学生全員が進級（仮進級を含む）し、復学した過年度生、転科生、留学生を加えて43名のメンバーでスタートしました。新型コロナウイルスの影響による未曾有の状況の中、学生も学校も手探りで取り組んでいる状況です。3学年は前学期が全面的に遠隔授業、後学期は段階的に対面授業となっています。

研修旅行は今年12月の実施が見送られたところですが、アンケートの結果約8割の学生が「延期でも実施」との希望であったため、学校側には学生の声を伝えているところです。副担任の當間栄作先生と協力して学生が安心して勉強や課外活動に熱中できる環境作りを目指します。学生の保護者の皆様におかれましては、学生や学校についてのご相談は担任までお気軽にご連絡ください。

はぎの わたる
萩野 航

生物資源工学科 3年

生物3年担任の萩野です。

遠隔授業に新しい生活様式、新しい日課、毎朝の検温、“三密”の回避…。今年は何から何まで慣れないことばかり。新型コロナウイルスの県内の感染拡大状況も大きく変化し、始まると思っていた対面授業が始まらず。目まぐるしく変化する情勢に、生物資源工学科3年生も振り回され、戸惑うことが多かったのではないのでしょうか。しかし、そんな中で実施した「オンラインプレゼン発表会（環境学実験）」では、皆さんの調査報告のクオリティの高さに度肝を抜かれました。班に分かれて遠隔コミュニケーション、データ収集、発表資料作成など、柔軟に取り組んでいる様子を見ることが出来て安心しています。

後期に入ってようやく対面授業が始まりましたが、昨年と同じようにならない事が沢山ありますね。閉塞感を感じる毎日ですが、ふさぎ込んでしまわないよう、クラスの中で声をかけあって頑張っていきたいと思います。



たけむら ふみあき
武村 史朗

機械システム工学科 4年

機械システム工学科 4年担任 武村史朗です。昨年の3年担任から引き続き4年担任をしています。前期の機械4年の様子をご紹介します。とはいっても、この前期の4年生はすべて遠隔授業でしたので、ほぼ、学生とは電話・メール等でのコミュニケーションでした。4年生は進路を決める上で大きなイベント「インターンシップ」がありましたが、このコロナ禍の影響で、参加できるのはオンラインインターンシップのみになり、多くの学生が不参加となり、大変残念なこととなりました。今後は、オンラインでの業界研究会などを通して、学生の進路支援をしていきます。前期は遠隔授業のみでしたが、学生同士でSNS等を使って、教え合い頑張って課題をこなしている様子でした。学生には今後も皆で教え合う、高め合うことをお願いします。

保護者の方々には、受講に関して大きなご負担をお掛けして、大変申し訳ございませんでした。ご協力いただき、感謝申し上げます。後期は対面授業からの開始となりました。対面の時期に実験・実習系の授業は機器に触れる・操作する機会を多く設け、より一層の工学教育に努めてまいります。



よ な みね たかひろ
與那嶺 尚弘

メディア情報工学科 4年

メディア情報工学科 4年生担任の與那嶺です。4月にメディア情報工学科へ転科したため、クラスのみなさんとはほぼ面識がないまま前期が終わりました。その間、副担任の金城篤史先生には一から十まで大変お世話になりました。クラスのみなさん、担任に気を遣うことなく、これからも金城先生を頼ってください。

今年度は新型コロナウイルスのため授業開始時期が大幅に遅れ、学生も保護者も学校関係者も戸惑いの中で遠隔授業が始まりました。みなさんは遠隔授業に慣れるのは早かったと想像しますが、クラスメートと過ごす機会が減り不安を感じた学生もいるかと思います。後期は同級生や先輩・後輩、先生方と過ごせる「これまでの日常」が回復したことで、学生生活をより楽しんで欲しいと願います。

4年生になり、進路について考える時期を迎えました。将来を想像し、現在の自分に向き合い悩む時期です。しっかり悩みましょう。学科全体で、また、金城先生とともに、みなさんの学生生活を支援したいと思います。



かめはま ひろき
亀濱 博紀

情報通信システム工学科 4年

情報通信システム工学科 4年の担任をしております亀濱博紀と申します。今年度の前学期の講義は全て遠隔での実施となりました。4年生の講義は、レベルがぐんと上がり、進度も早くなります。遠隔講義となったことで毎日のように課題に追われ、仲の良い友人とも気軽に会えず、苦しい思いをした学生もいたことでしょう。遠隔講義というこれまでに体験したことのない講義スタイルながらも、さまざまなツールを駆使して学生同士でコミュニケーションを図り、協力しながら課題をこなしていく学生達の様子に感心しつつ、私も頑張らねばととても元気づけられました。自主的に課題に取り組める学生がいた一方で、課題を溜め込んでしまい、期末に焦ってしまった学生も少なくありません。後者に心あたりのある学生は今一度、初心をふり返り、自身の将来像を見据えて、「自律・奮闘」してほしいと思います。

3月からは本格的に就職活動が開始となります。これまで以上に悩み、将来に対する不安を抱えるかもしれません。しかし、決して自分自身を卑下することなく、これまで取り組んできたたくさんのことに自信を持ち、将来を見据えて力強く邁進して行ってほしいと願っています。



いそむら なおこ
磯村 尚子

生物資源工学科 4年

コロナのため、4年生は前期すべて遠隔授業を受講することとなりました。さらに、4年次の一大イベントであるインターンシップも対面型での開催は中止となり、一部学生はオンラインインターンシップに参加できたものの、多くの学生は参加ができませんでした。しかしながら、このような今までにない状況においても、学生が冷静に且つ真剣に学業に取り組んでいる姿をみると、「たくましくなったなあ」と彼らの成長を感じずにはいられません。

もちろん、例年と大きく異なる状況の中での就職や進学を考えると、不安になることもあるでしょう。学生たちには折に触れて「立ってるものは担任でも使え」と言っていますが、不安なときは友達、先輩、家族、そして教員（担任を含む）へどんどん相談してほしいと思います。そして、誰かが話をしに来たら、ぜひ彼・彼女の話を耳を傾けてあげてください。こんな時だからこそ、「おたがいさま」の気持ちを持って過ごして行ってほしいと願っています。



まきし たかし
眞喜志 隆

機械システム工学科 5年

今年度の前期は多くの時間と講義で遠隔授業となっており、学生も教員も勝手がわからず、手探りの状態で講義を進めてきました。遠隔授業では、学生と教員が直接やり取りするのが難しく、質問対応がかなりやりにくかったのではないかと思います。

特に実験系の科目や卒業研究が十分に実施できなかったことを後学期に集中して行うことになり、これからかなり忙しい毎日になると思います。遠隔講義では、より学生自身の積極さが重要になると感じています。講義資料を読んで演習を行うだけではなく、疑問点に関してどんどん質問するようにして、より理解を深めてください。進路活動に関しても、ほとんどが遠隔で行われていて、通常とは異なる状況でいろいろ苦労があったかと思います。

日常生活でも気をつけなければいけないことがあり、まだまだ大変な状況が続くと思いますが、逆に貴重な経験ができた前向きに考えて、残りの学生生活を有意義に過ごしてください。



あいかわ ようへい
相川 洋平

情報通信システム工学科 5年

5年生は進路が決まる重要な学年です。就職は通常3月から選考が開始され5月をピークとして7月には就職先が決定します。一方、進学は6～8月に受験日が集中し9月には進学先が決まります。

今年度は未曾有の事態という事もあり、従来通りには進まないことを懸念していました。企業は採用に及び腰になるのではないかと、大学は受験自体を実施しないのではないかと、等の不安を感じていました。しかしながら、企業はオンライン面談を積極的に推進し、大学は受験期を遅らせる判断を迅速に下しました。何よりも学生が柔軟な対応力を発揮し、積極的に状況に適応していたように感じられます。ふたを開けてみると、9月末時点において、情報学科では9割を超える学生の就職先・進学先が決定しています。コロナ禍において、社会全体が前を向いて取り組んでいる状況です。当校でも、引き続き社会状況に応じた教育環境を提供し、学生を支えていきたいと考えております。



たまき たつひろ
玉城 龍洋

メディア情報工学科 5年

本来であれば、将来を見据え、勉学に励みながら学校で最後の学生生活を楽しむ時間なのですが、新型コロナウイルスの影響があり、対面授業と遠隔授業の併用の生活で学友との交流が十分に取れない状況です。

本学科は、比較的遠隔授業と相性のいい学科なのですが、やはり勝手が異なり学生も教員も苦労しているようです。ペースを管理する人がいない遠隔授業では個人の「やる気」が一番重要になってきます。社会人として仕事や私生活を充実させるためにも必要な要素で、目標を定め、それに向かって進もうと思うとき、「やる気」はでてきます。小さな目標で十分です。未来を見据え目標を立てる、その当たり前のことを意識していただければと思います。

大変な状況ですが、全てを後ろ向きに捉えるのではなく、この状況を自分の糧とし、更なる成長を目指す機会ととらえることを期待します。残り少ない学生生活が、学友とともに充実したものになるよう担任として努力してまいります。



たけもと
嶽本 あゆみ

生物資源工学科 5年

移動や面談さえ制限されたコロナ禍の中で始まった新年度、会社説明会や研究室訪問など、進路に関わるそれらほぼすべてがリモートでの開催になりました。慣れないレポートツールや機器の設定にも四苦八苦しながら、新5年生たちはそれぞれに自分の将来へむけた活動を進めていきました。

成績証明書や卒業見込書などは登校しての手続が必要になり、必要最低限の手続と資料閲覧のためにほんの短い時間だけ学生と教員とが顔をあわせる期間が長く続きました。コロナ不況が叫ばれる中でもありがたいことに学生を必要とくださる企業や大学も数多く、対面授業がはじまった9月時点で、生物資源工学科では85%の学生が進路を決定しています。残る学生も大学編入試験待ちや就職面接待ちなど、それぞれの活動を進めながら卒業研究に勤しんでいます。

生物資源工学科の学生が学んできた知識は感染症対策にも活かされるものと、教員は見守りと指導を続けています。



たけむら ふみあき
武村 史朗

機械システム工学コース

機械システム工学コース コース主任 武村史朗です。前期は対面と遠隔授業が併用となり、学生の方も戸惑いがあったかと思います。コースごとの専門科目は小人数ということもあり、私の担当していた授業ではオンラインでシミュレーション実験を行いました。学生同士で画面共有をして、教え合ったりして、さすが専攻科生だな、と感心することがありました。しかしながら、実験系を主とする特別研究などでは、学校に來れない学生にとって、テーマ設定や研究の進め方などに大変悩んだこともあるかと思います。

また、このコロナ禍で進路や将来について深く考えたこともあるかと思います。答えの出ないことはいろいろあったりします。日々考えるしかないときもあります。そのような時期も大事な期間だと思います。しかし、一人で考えるのも疲れますよね？そんなときは、気軽に話せる友達や教員、まわりの方に考えていること・悩んでいることを話してください。皆待っていますよ。



たにふじ しょういち
谷藤 正一

電子通信システム工学コース

電子通信システム工学コースの学生にとって、これ程までに自分たちが勉強してきたことが社会で役立つことを経験したことはなかったのではないかと思います。登校ができない間にも ICT を活用することで、遠隔授業や特別研究の調査が継続してできたことは、その恩恵を感じずにはいられなかったはずです。しかしながら、研究室とは違って、自分一人で過ごす時間も長く感じたことでしょう。

学校は勉強するばかりではなくて、時間や空間を共有する場であったことも改めて認識したかも知れません。そんな中で、自らがこれまで以上に考えて行動できたことは、これからの進学や就職した先でも必ず必要となってくるスキルを、図らずも慣れ親しんだ高専で体験することができて何よりだと思います。それでも、学校に來なければできない実験なども存在します。前期中のできなかった時間をバネに、残りの半年間ペースアップしてやっていきましょう。期待しています。



いは やすし
伊波 靖

メディア情報工学コース

今年度は新型コロナウイルス感染拡大のために、前期はほぼすべての講義が遠隔での実施となりました。専攻科生は其中にあってもしっかりと履修を進めることが出来ました。とても素晴らしいことだと思います。また、就活に関しても自分で積極的に取り組み、厳しい情勢化にも関わらず早期に内定を獲得することが出来ました。一番不安だった特別研究も確実に進めることが出来ており、高専7年間の集大成になるように学位授与申請に向けて準備を進めてください。

この半年間の経験は社会に出てからとても役に立つものだと思います。2年生は残り半年となりましたが、「禍を転じて福と為す」の精神で悔いのない高専生活になるように頑張ってください。



たま き やすとも
玉城 康智

生物資源工学コース

生物資源工学コースの学生は、前期の遠隔授業が続いた状況で特別研究を進めるのは、かなり大変な作業だったと思います。これまで育ててきた動物や植物、微生物、培養細胞など大切に管理してきた実験材料が使えなくなる状況や、連続したサンプリングや測定を中断するなど多くの困難があったことは容易に想像できます。特に特別研究Ⅱにおいては、遠隔授業期間が研究報告の最終的なデータを取りまとめる大切な時期であったため、研究計画の変更を余儀なくされた学生も多いと思います。

しかし、これは皆さんの安全を第一に考えての処置であり、研究の中断は専攻科生の全コース同じ条件です。この状況下では、学位申請に必要な報告書を如何にまとめるのが試されています。この困難な状況の中、沖縄高専の組織全体で学生をサポートしますので、皆で力を合わせて乗り越えましょう。皆さんの頑張りを期待しています。

学生寮の取り組み



副校長(寮務担当)
はま だ たいすけ
濱田 泰輔



特別日課の対応

3つの密を避ける新しい生活様式の実現のため、従来の日課とは異なる特別日課を設定しています。朝食、昼食時間を確保するため、起床時刻を早め、始業時刻を遅く設定しています。4時限が終わるのが17:10になります。原則的には18:00が下校時刻です。3時限終了の15:30には寮は開錠しますので、帰寮可能です。入浴時間も15:30から可能としています。17:30からの入浴に関して密集、密接を避けるため、学年ごとに時間の割振りを設定しています。

特別日課表

9/21(月)～

時間	事項	感染対策
6:30	起床、検温	起床とともに検温する。
6:45	点呼	
7:00	8:40 朝食	・指定された時間やテーブルで摂食
8:45		学生寮5Fブリッジ入り口施錠
8:50	9:00 SHR	
9:00	10:30 1限	
10:40	12:10 2限	
12:10	14:00 昼食	・朝食と同様
14:00	15:30 3限	
15:30		学生寮5Fブリッジ入り口開錠
15:40	17:10 4限	
18:00	下校	※課外活動は顧問の指示に従う
15:30	20:30 入浴	・指定された時間で入浴
18:00	20:00 夕食	・朝食及び昼食と同様
20:10	門限、検温	
20:40	点呼	
20:40	21:00 清掃	
21:00	23:00 学習時間	
23:00	消灯	

レストラン対応

密にならないように朝食、昼食の時間を延ばして学年ごとに分散した摂食時間を設けています。手洗い手指消毒後にレストランフロアに入るよう動線を設定しています。6人掛けと4人掛けの食卓はそれぞれ2名の着席にして間隔を確保し、中央部にアクリル製のパーティションを設置し、斜向かいに着席するようにして飛沫防止対策を施しています。また、ご飯と汁物もつぎ渡しにし、個々人にトングを用意して、しゃもじ、玉杓子、トングの共用もなくしています。

副校長(寮務担当)

学生寮は開寮していますが、全寮生が揃っての寮生活が難しく、学年により入寮と在宅を交替して生活してもらっている状況です。帰省・入寮の日程は決定次第 Web ページやメール等でお知らせいたしますので、こまめに確認してください。在宅期間中は健康に留意した生活を送ってください。健康・行動観察の記録も確実に行ってください。

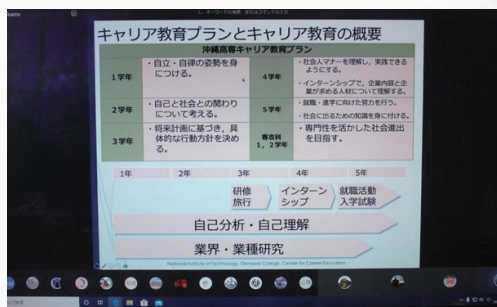
キャリア教育センター活動紹介



キャリア教育センター長
つむら たくや
津村 卓也

世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、キャリア教育センターを中心に実施予定であった行事のうち、前期中に予定されていた「新入生オリエンテーション」、「自己分析セミナー、ビジネスマナーセミナー」、「租税教室」が中止、また「企業による業界研究会」、「企業説明会」、「大学・大学院（進学）説明会」などが対面実施の見送り、さらにその他行事はオンラインでの実施となりました。また夏休み期間中に実施予定であった「インターンシップ」は、県内での実習実施を目指し前期終了直前まで準備を進めておりましたが、県の緊急事態宣言発令を受けオンライン実施の実習以外は中止となりました。

このような状況の中、2 学年では Teams によるテレビ会議形式で『キャリア教育センター長講話』を開催しました。学生たちは、本校のキャリア教育の概要と低学年のうちにしておくべきことについての講話を自宅から聴講し、自分たちの未来について具体的にイメージづくりをするきっかけを持ちました。



2 年生：キャリア教育センター長講話の様子
(Teams 配信画面)



3 年生：コミュニケーション研修の様子
(視聴覚ホール：2 学科)

後期の初めには、3 学年の『コミュニケーション研修』を開催しました。学外講師は Teams によるテレビ会議で「社会に出るまでに、身につけておきたいコミュニケーション力」についての講義を行い、三密を避けるために視聴覚ホールと自教室 2 つの 3 ヶ所に分かれ学生が聴講する形式で実施されました。

4 学年では、これまでは『ビジネスマナー講習』『メイクアップ講座』と分かれていた講義内容を整理し、Teams によるテレビ会議形式で『身だしなみ・メイク/ビジネスマナー講座』を開催しました。学生たちは、身だしなみやビジネスメイクアップの方法、挨拶の仕方などのビジネスマナー、さらにテレビ会議形式でのオンライン実習・面接の際に Web カメラ映えをよくする方法、などについて自宅で学びました。



4 年生：身だしなみ・メイク/ビジネスマナー講座の様子（配布資料と Teams 配信画面）

大学での授業って？

- ・アウトプットがメイン（卒業研究）
- ・そのためのインプットは当たり前。
自主的に勉強できるのは当たり前。
- ・高専生はアウトプットの面で有利かも？
→ PBL の経験が非常に役に立った

4 年生：進学に関するキャリア教育の様子
(Teams 配信画面)

また主に 4 学年を中心とした希望者に対し、昨年度から実施していた『進学に関するキャリア教育』を、Teams によるテレビ会議形式で開催しました。専攻科や 3 年次編入などの進学に関する内容を専攻科長から、また、自身が進学をして本校教員になるまでの経緯や考えてきたことなどの内容を本校出身教員からそれぞれ講義頂き、学生は自宅で学びました。

なお後期に実施予定の行事のうち、現時点で「研修旅行（3 学年）」は今年度の実施見送り、「学内業界研究会」はオンライン実施に向け検討を行っており、その他行事についてもオンラインでの実施や三密を避けた会場設営など、感染拡大防止の工夫を行って参ります。今後も新型コロナウイルス感染症の影響は続くと考えられます。「高専の学びを安全に提供する」観点で、教職員だけでなく多くの企業・団体の方や卒業生などにご協力頂きながら、キャリア教育プランに則ったキャリア教育と進路支援を継続して参ります。

就職・進学活動の様子



やまし ろ かい む
山城 開夢

機械システム工学科 5 年生

私は 3 月に就職活動を開始し、3 月末に 1 社目の面接を受けました。結果は不合格でした。その後、6 月に 2 社目の面接を受け無事内定を頂きました。なんとなく受け準備不足で 1 社目に落ち、そこから真剣にやりたいことを考えた結果行きたい企業を見つけることが出来ました。

結果的にはより自分の未来像とマッチする進路を選べたと感じています。これから就活をする方は、早いうちに自己分析・企業研究を行うことで納得する進路を選択できると思います。



ひやみず はるか
冷水 晴香

情報通信システム工学科 5 年生

確か 3 月の中頃からコロナの威力が徐々に増していきましたが、私はその時就活真っ只中でした。

3 年生の頃、授業の一環として出席したとある企業の説明会で「働くようになったら、何を楽しみにするんだろう」と漠然と思っていました。それを探るために、炎天下の中、慣れないパンプスで靴擦れしながらバスに乗って、インターンシップに参加した覚えがあります。靴擦れはすごく痛かったけど、理想の社会人像を思い描けたり、嬉しいことに第一志望の企業から早期採用選考対象者に選ばれ、内定に繋ぐことができました。

コロナ禍で就職先が限られ、予測しづらいと思いますが、目の前にある出来る事を真摯に取り組んでいけば、きっと嬉しい結果に繋がっていきます。今のご時世だと、私のように靴擦れで痛い思いをしなくても PC 1 つで色んな企業のインターンシップに参加できますよね。ぜひ、オンラインを上手く活用して、自分の「1 番譲れない働き方」を見つけてください。



まし き そう ま
真志喜 蒼麻

メディア情報工学科 5 年生

私が就職活動を開始したのは 4 年生の 12 月頃からです。初めの頃はどのように就職活動を進めたらいいのか分からず苦労しました。学校で開催される業界研究会に参加していく中で、やりたい仕事ははっきりとし、就職したい企業を絞り、インターンシップへ参加など積極的に動き始めました。

3 月には推薦願を出し、5 月には内々定を頂きました。後輩の皆さんへのアドバイスとして、些細な事でもいいので「私は高専でこういうことを頑張った」といえることを 1 つ作っておくと思います。面接の際それはとても大きな力になります。後輩の皆さんも行きたい企業へ就職できるよう頑張ってください。



たまし ろ こう た
玉城 晃太

生物資源工学科 5 年生

私の進学活動は 4 年生の 3 月ごろから開始しました。私は専攻科の推薦入試を受験予定だったので、専攻科の先輩に話を聞いたりして入試についての情報を集めました。今回の面接はリモートだったので、とても緊張してしまい自分の思うように話すことが出来なくて、悔しい思いをしましたが、結果は合格することができました。

これから進学や、就職を行う皆さんにできるアドバイスは、試験や面接の当日は今までやってきたことを信じてリラックスすることです。

まえざと けいご
前里 敬吾

専攻科
機械システム工学コース 2 年生

私は来年からゲームプログラマーになります。「専攻科の機械系がなぜ？」と疑問に思うかもしれませんが、機械系から異分野への就職の一例としてみていただくと幸いです。中学三年生の時、カラクリが好きでアナログゲームを作るのが趣味だった私は「将来コンピュータのゲームを作りたい」と先生に言いました。返事は「車も飛行機も好きでしょ、モノづくりなら機械系、そこならゲームでもなんでも作れる」でした。私は機械科の万能感に憧れ入学しました。しかし、学年が上がり専門中心の授業になって行くにつれて少しずつ情熱が小さくなっていきました。いつの間にかゲームも諦め、5年生の春に制御の勉強のために専攻科への進学が決定します。いよいよ後戻りはできない、将来は機械系に行くしかないと思像した時、「趣味で到達できないクオリティのゲームを作れるようになりたい」という思いが湧き出てきました。専攻科進学が確定した時、自分の中で覚悟が決まり、決して明かさなかった「ゲームクリエイターになりたい」という気持ちを周りに伝え始めたのです。

そこから就職活動の準備も兼ねて、C++を使うゲームプログラミングの独学を始め、小規模ゲームをいくつか制作しました。専攻科1年生の後半からはリクナビ、マイナビ、キャリアスなど求人情報を漁り、専攻科1年の春休みに数社の会社説明会を受け、応募しました。作品選考では、自分なりに制作した2Dゲームを提出しました。書類選考や面接では、機械で学んだ数学、研究で培った課題解決能力等をアピール材料にしました。大変嬉しいことに、第一志望の会社から合格通知をいただくことができました。夢を追いたい時、親でも先生でもなく、まず自分自身に認めてもらえないと何も始まりません。私は5年の春まで、自身の将来の夢を認めず許可もしませんでした。しかし、機械科での多くの課題と厳しいテストを乗り越えた結果、自信が宿り、独学の厳しい世界を歩く覚悟ができました。その意味でこの7年間は全く無駄ではなかったのだと感じています。最後に、この情報が将来に悩める誰かのヒントになれば幸いです。



ながみね けん
長嶺 健

専攻科
電子通信システム工学コース 2 年生

就職活動は多くの人が悩むだろうと思います。私は、そうならないためにもしっかり準備することが大事だと思います。企業説明会やインターンに参加するだけでなく、自分だけの武器を作ることにも意味があります。趣味や興味のあることに対し、どのように取り組むかを考えるだけでも、それが就職活動になると思います。私は専攻科に進学し、就活までの間に資格取得やインターンに参加したりしました。焦らないためにも早めに行動し、より良い選択をすることが大切です。



い れい やす し
伊礼 恭士

専攻科
メディア情報工学コース 2 年生

進路についてはたくさん悩むと思います。私は1度決めた進路がブレるのは、別に良いと思っているのですが、考えることだけは放棄しないでください。しっかりと自身で考え抜いて、後悔のない選択が出来るように頑張ってください。

また、具体的なアドバイスをすると、インターンシップは行ったほうが良いです。うちの学校は、外の学生や社会人の様子が能動的に動かないと見えにくい環境なので、外の環境を見ることで、自分がどのような立ち位置にいるかなどを知ることが大切だと思います。



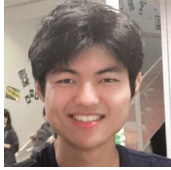
はらぐち げんだい
原口 弦大

専攻科
生物資源工学コース 2 年生

今年度の就職活動は、新型コロナの影響で例年とはかなり違うものになりました。私にとって就職活動は正直つらい時期でしたが、自分を客観的に見返すいい機会でもありました。自分の長所や短所、これからどういう人生を歩んでいきたいかを考えた期間はこれからの社会人生活に必ず生きていくと思います。

就職活動にネガティブな印象を持つ人もいるかもしれませんが、これからの自分にとって必要な時間と捉えて臨めば、きっといい結果が得られると思います。

インターンシップ報告



か で な ひ さ し
嘉手納 悠

機械システム工学科

業界やその企業の様子、雰囲気を知るためには、インターンシップは不可欠なものです。しかし今年は、新型コロナウイルスの影響で対面での実施が不可能となり、原則オンラインでの実施となりました。私は沖縄高専出身の方が就職している、県内企業の極東建設さんにインターンシップをお願いしました。2日間という限られた時間でしたが、インターンシップでしか学べないことや、知ることができないことが多くありました。

具体的に言えば、高専で学んだことが生かしていることよりも社会人になって学ぶことの方が多く、毎日が勉強であるということです。期間中に出された課題で作成したCAD図面も、テストでは点数が取れても、実際に発注できるようなものではないことを知りました。受注側に意図が伝わりやすいものを作成すること、相手の目線で物事を考えるということの重要性について痛感しました。

大変貴重な時間の中、インターンシップを行ってくださった極東建設の方々には、感謝の限りです。ありがとうございました。



みやがわ
宮川 リア

メディア情報工学科

私は9月8日から9月11日の4日間、沖縄県の企業である株式会社シーエー・アドバンスさんのオンラインインターンシップに参加しました。この企業はサイバーエージェントグループのうちの1つであり、インターネット広告事業やゲームなどインターネットサービスに関わる様々な事業を行っています。

今回のインターンシップでは沖縄高専生へのみの参加となっており、私以外にも同級生6名が実習を受けていました。開発とセキュリティに分かれ、それぞれで実習を受けました。開発は4名、セキュリティは3名で私は開発でした。

初日は午後から始まりました。オンラインインターンシップということで、ZoomとSlackを使って行いました。この日は参加者全員で企業についての説明と交流会をした後に開発とセキュリティにそれぞれ分かれて説明を受けました。

開発ではNext.jsを使用したWebアプリケーション開発を行いました。ここでは2人ずつのグループにわかれ、メンターさんを加えて開発を行いました。グループでの作業なのでgitなどを用いてソースコードの管理をしました。gitだけでなく、今回扱う言語やソフトウェアのほとんどが初めて触るものだったので慣れるまでは苦労しました。

2日目と3日目はWebアプリケーション開発に本腰を入れながら、お昼休憩時には社内で行われた社員の懇親会や勉強会などの写真を見せて頂いたり、就職についてのお話をしました。

最終日である4日目の午後にはセキュリティ実習の人たちと一緒に成果物のプレゼンを行いました。

私は想像していた様なWebアプリを時間内に作りきれませんでしたが、もう一人のグループメンバーやメンターさん達に助けられながらなんとか作り終えることができました。

今回のインターンシップはオンラインでの開催となり、社員の皆さんと直接顔を合わせることができませんでしたが、わからないことをSlackで聞くこととすぐに対応して下さったりZoomでもフランクな雰囲気でのいるようなお話が出来て非常に楽しかったです。ただ、社内の見学が出来なかったのは残念でした。

初めてのインターンシップに参加してみると、実際の仕事と同じようなことを体験できるので今までより就職活動に意欲的になり、少しずつではありますが将来のことも考え始めるようになりました。

これから4年生にあがる皆さんの中でやりたい事が見つからない人は、とりあえずインターンシップに参加してみるとなんとなくですがこういうのが良いかも、といったことが想像出来るようになると思います。



ひ が ふ ゆ き
比嘉 風優希

情報通信システム工学科

私は9月上旬の5日間、大阪ガス株式会社にインターンシップでお世話になりました。大阪ガス株式会社は都市ガスの製造や供給、販売をメインに取り組んでおり、現在はガスを利用した発電やガス機器の研究開発、海外のエネルギー事業も行っている企業です。

私は6月頃にこのインターンシップが決まっており、当初は大阪の本社やその近辺にある工場などの見学が予定されていました。しかし、新型コロナウイルスの影響でオンラインという形での開催となりました。オンラインでの開催になったことは残念な部分もありましたが、多くのインターンシップが中止となる中、中止ではなくオンラインで開催していただいたことに感謝しかありません。

インターンシップではガス製造やガスを利用した発電部門、導管保守や海外事業など様々な部門の業務内容の説明を受け、その部門の社員との座談会を行いました。座談会では業務で大変なことや辛かった経験、楽しかったこと、嬉しかったことなど、たくさんのお話を聞くことができ、とても勉強になりました。座談会には沖縄高専の卒業生である社員も参加しており、沖縄との環境の違いや日頃から感じる周りとのギャップについてもお話をすることができました。また、インターンシップ参加者でグループワークも行いました。このグループワークでは普段なら話すことのできない他高専の学生とコミュニケーションを取ることで、とても刺激を受けました。

このインターンシップで私がとても印象に残っているのは社員の皆さんの仕事へのモチベーションがとても高いということです。インフラ系の企業ということで、普段行っている業務が顧客の生活に直結しているという強い責任感が社員全員にありました。働き方にフレックスタイム制を採用し、シフトをうまく調整するなど、普段の業務に専念できる環境作りに魅力を感じました。何より、働きやすい環境作りに取り組んでいて、社員の方々がとても強い責任感を持っている姿に強く胸を打たれました。

これまで働くということに不安を感じていた私ですが、このインターンシップを通して、これから就職活動等を行っていくにあたり、自分が目指す働き方やどんな企業で働きたいかという明確なビジョンを持つことができました。

この新型コロナウイルスが猛威を振るうなか、オンラインという形でインターンシップを開催してくれた大阪ガス株式会社にはとても感謝しています。そして、普段なら絶対に聞くことのできない工場内部のお話や都市ガス運用などの貴重なお話をしてくださった各部門の社員の皆様、本当にありがとうございました。

ほりかわ あきら ひ が まさみ
堀川 玲良・比嘉 優海

生物資源工学科

私たちはサントリーホールディングス株式会社のオンラインインターンシップに参加しました。内容としては3日間の日程で、3つの工場（ビール・スピリッツ・清涼飲料各1つずつ）を見学し、そのあとグループワークを行いました。

工場見学では主な業務内容を説明していただき、その後先輩方が実際に働いているところを見学させていただきました。工場見学後のグループワークでは、先方から出された課題についてグループで協力して1時間という限られた時間で意見交換をしてPPTにまとめ、発表しました。

このインターンシップ期間中では、自主性を求められることが多くありました。工場見学での質疑応答や見学後の報告会、また上述したようにグループワークもあるので自分から積極的に意見を発表する姿勢が大切になります。自分の意見をまとめ、相手に伝えるということは非常に難しく、苦労しましたが、この経験は今後にも活かせる貴重な体験でした。

学生活動の様子

オンラインでのコンテストへの取組



情報通信システム工学科1年生

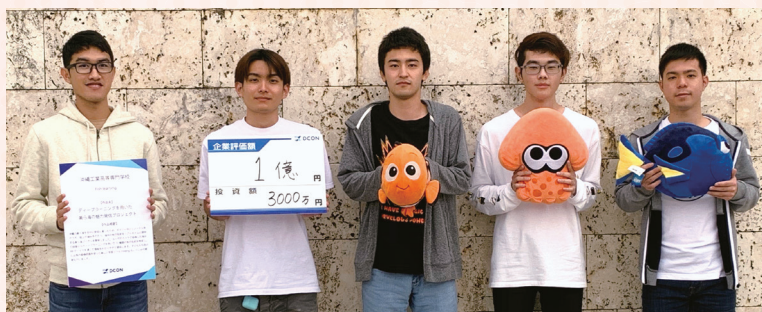
わしざわ りょうが
鷲澤 稜河

私たちは、「失語症患者や聾者・聾重複者向け AI コミュニケーションシステム」というテーマで神奈川工科大学で開催された IT 夢コンテスト 2020 に出場し、優秀賞を受賞しました。

僕は、以前から聴覚障害を抱えた方々のサポートをしたいと考えていました。そこで、高専という進路を知り、興味を持った分野について調べるうちに、「ICT（情報通信技術）などを使ったサポート」も可能だと分かりました。この頃から、「ICT を用いたシステム」で活躍したいと思うようになりました。

入学して間もなく IT 夢コンテストの存在を知り、自分の考えていることを発信する機会にできると考えました。知識が乏しかったので、まずは情報収集から。さらには資料作り、発表原稿作りと、やることがどんどん増え、正直大変でした。ですが、心強い先生や仲間、外部の専門家の方にも協力していただき、無事に仕上げることができました。最優秀賞とまではいきませんでした。僕たちのアイデアが審査員の方、IT 夢コンテストを見て頂いた方に伝えられたなら幸いです。

最後になりますが、多角的な意見・疑問を投げかけてくださった皆様、非常に参考になりました。ありがとうございました。今後もさらに改良を加え、世の中で使われるシステムにしていきたいです。



参加したメンバー

情報通信システム工学科5年生

ひが あきと
比嘉 諒人

私たちはオンラインにて第1回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト 2020 に参加しました。今回はコロナウイルス感染拡大の影響をうけ、チームで集

まって活動できなかったり、いろいろ難しい部分もありましたが、その中でもできることをみんなで考えて一杯頑張ってきました。コンテストの結果は企業評価額 1 億 5000 万、投資額 1500 万、総合順位 5 位と、目指していた 1 位には届きませんでしたが、コロナ禍という難しい状況の中でも諦めずに最後までやりきり、しっかりと結果を残せたことにメンバーも達成感を感じていました。

また企業賞として矢崎総業株式会社様より矢崎賞をいただき、その後幾度かオンラインにて技術交流を行えたことで、学生のスキルアップと新しいテーマの発掘を図れたと思います。

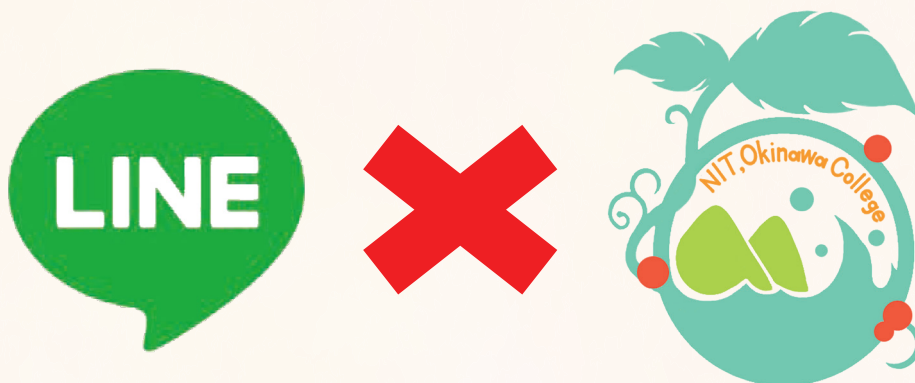
初めてのオンラインでのプレゼン発表やメディアへの対応など、慣れないことが多くありましたが、メンバー一同これからの人生に生きる貴重な経験ができたと思います。後輩のメンバーたちが今後もより精進して、沖縄高専を盛り上げてくれることを期待しています。



放映された番組の様子

LINEでも入試情報公開します！

「友だち」登録をお願いします！



2020年10月1日から、沖縄工業高等専門学校広報センターでは、本校入学希望者に向けた入試広報イベント・地域イベント等の情報発信を行います！ぜひ、ご登録（友だち追加）いただき、本校を身近に感じてください。

沖縄高専が LINE 始めます

1. 友だち登録方法 その1 「ID検索」

- ・LINEアプリメニュー「友だち追加」から「ID検索」を選択。
「@okinawa_kosen」と入力の上検索いただくと、友だち追加が可能です。

2. 友だち登録方法 その2 「QRコードの読み取り」

- ・右記のQRコードを読み取っていただくと「友だち」追加できます。



3. 友だち登録方法 その3

- ・スマートフォンから <https://line.me/R/ti/p/%40930bmdte> をクリック

問合せ先

沖縄工業高等専門学校 総務課総務係

TEL：0980-55-4003 Mail：ssoumu@okinawa-ct.ac.jp